はじめに

九州南端から鹿児島県南端の与論島まで連なる薩南諸島は、複雑な地史、暖温帯と亜熱帯の境界部にあり異なる温度環境を持つことなどから多くの固有種･希少種が存在し、その学問的・生物資源的な価値はきわめて高い地域です。特にアマミノクロウサギなどが生息する奄美群島には生物多様性が高い独自の生態系があり世界遺産候補地となっていますが、その研究はあまり進んでいません。また、世界自然遺産指定後観光資源として活用することを地元では期待しており、適切に管理して観光資源として活用していく指針が求められています。

鹿児島大学は平成 27 年 4 月に教員が常駐する国際島嶼教育研究センター奄美分室を、奄美市に提供していただいた建物に設け、地域に密着した研究・教育を開始しました。それとともに、この奄美分室を強化し世界遺産へ向けた教育研究を行なうために、平成 27 年度文部科学省特別経費（プロジェクト）「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育拠点形成」を推進することにしました。

このプロジェクトは、世界自然遺産候補地の奄美群島及び周辺の薩南諸島を対象に、1）生物多様性の保全に関する人材の育成と研究成果の発信、2）生物多様性の成立機構の研究、3）生態系の多様性維持機構の研究、4）保全地域の管理運用・観光利用計画策定に関する研究を推進することを目的にしています。その運営には奄美市、そして鹿児島大学の各学部や学内共同利用施設など 40 数名の教員が参加しています。教育･研究の内容は主に 5 つの分野（陸上植物、陸上動物、人と自然、水圏、基礎）からなります。

平成 27 年度の具体的な活動として、各研究者が各自の研究を推進するとともに、一般市民を対象にした干潟（平成 27 年 9 月 26 日）や森林（平成 27 年 12 月 23 日）の観察会、奄美分室を利用した様々なテーマでの研究会などを開催しました。また、平成 27 年 5 月から平成 28 年 4 月には毎週一度「生物多様性と保全―奄美群島を例に―」というコラムを地元新聞紙面に全研究者が分担し執筆してきました。このコラムはまとめて、ブックレットとして平成 28 年に出版を予定しています。最後に、これらの活動を総括するために、平成 28 年 2 月 21 日に、地域の研究者と鹿児島大学の研究者が参加し、シンポジウム「生物多様性シンポジウム―奄美群島の生物多様性：その魅力を再発見―」を開催しました。

本プロジェクトは 6 年単位の大学中期計画との関係で平成 27 年度末に一旦終了しますが、平成 28 年度から 4 年間同様のプロジェクトを実施します。このように、今後も鹿児島大学は全学プロジェクトとして奄美群島を中心とした薩南諸島を対象に教育・研究、そして地域貢献を推進していきます。

本報告書は平成 27 年度文部科学省特別経費（プロジェクト）「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育拠点形成」の活動報告書です。最後に、本事業を行うにあたりご協力いただいた、地域の住民の皆様、そして奄美市や奄美群島広域事務組合を中心とした薩南諸島における行政機関の皆様に感謝を申し上げます。

平成 28 年 3 月 9 日
プロジェクト代表
鈴木英治
河合　渓

【観察会】

奄美の生物多様性観察会

日時：平成 27 年 9 月 26 日 9 時 30 分～13 時
場所：住用干潟

【観察会】

初冬の奄美で森の木を見る会

日時：平成 27 年 12 月 23 日 9 時～12 時 30 分
場所：奄美自然観察の森

【生物多様性シンポジウム】

奄美群島の生物多様性―その魅力を再発見―

日時：平成 28 年 2 月 21 日 13 時～17 時

場所：名瀬公民館金久分館 2F 研修室

生物多様性シンポジウム

奄美群島の生物多様性：その魅力を再発見

平成 28 年

2月21日（日） 13:00~17:00 (12:30 受付開始)

名瀬公民館金久分館 2F 研修室
入場無料

開催の辞
13:00-13:05　住吉　文夫（鹿児島大学・理事）

講演
13:05-13:30　「湯湾岳の希少植物」山下　弘（植物写真家）
13:30-13:55　「オキナワウラジロガシ林の維持機構」　鵜川　信（鹿児島大学農学部・准教授）
13:55-14:20　「地域資源としての奄美の海洋生物」　興　克樹（奄美海洋生物研究会・代表）
14:20-14:45　「奄美群島の藻類・海草類と生育環境」　寺田　竜太（鹿児島大学水産学部・准教授）
14:45-14:55　**休憩**
14:55-15:20　「なぜオオトラツグミを守るのか：希少種と生物多様性の保全を考える」
水田　拓（環境省奄美野生生物保護センター・自然保護専門員）
15:20-15:45　「人間とあまくろの交差点：野生動物の観光利用を考える」
鈴木　真理子（鹿児島大学島嶼研奄美分室・プロジェクト研究員）

コメント　生物多様性と人間の関わり：先史時代と現代
15:45-15:55　宮宮　広士（鹿児島大学島嶼研・教授）
15:55-16:05　鈴木　祥之（環境省奄美野生生物保護センター・上席自然保護官）
16:05-16:15　**休憩**

パネルディスカッション
16:15-16:55　司会　藤井　琢磨（鹿児島大学島嶼義奄美分室・特任助教）
パネラー　上記講演者、桑原　季雄（鹿児島大学法文学部・教授）、大海　昌平（奄美両生類研究会・代表）
＊近世から近代の先人達が奄美群島の生物多様性とどのように関わってきたか、現代の社会にも残るそのやり方も参考に、今後の関わり方を探っていきます。

閉会挨拶
16:55-17:00　鈴木英治（鹿児島大学理学部・教授）

日時：　平成 28 年 2 月 21 日 (日) 13:00~17:00（12:30 受付開始）
会場：　名瀬公民館金久分館 2F 研修室
主催：　鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室、鹿児島大学重点領域（環境）、「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」プロジェクト
共催：　環境省奄美野生生物保護センター
後援：　奄美市、奄美群島広域事務組合
問い合わせ先：　0997-69-4852（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室）

＊終了後、参加してくださった皆さんと講演者、パネラーの皆さんとの交流タイムをもうけます。講演やパネルディスカッションで質問しにくかったことをもっと聞きたい、今後のために連絡先を交換したい、という皆さんはぜひお残りください。
＊名瀬公民会金久分館には駐車場がありますが、使用できる台数が限られています。できるだけ公共交通機関でのご来場をお願いします（バス停「長浜入り口」下車すぐ）。